



各 位



平成 29 年 5 月 2 日

会社名 価値開発株式会社
代表者名 代表取締役社長 高倉 茂
(コード番号 3010 東証第2部)
問合せ先 取締役管理本部長 秋山 耕一
(TEL:03-5822-3010)

**通期の連結業績予想の修正並びに
営業外収益(投資事業組合運用益)及び特別損失(減損損失)の計上に関するお知らせ**

平成 28 年 11 月 8 日に公表いたしました平成 29 年 3 月期通期 (平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで) の連結業績予想につきまして修正いたしましたので、お知らせいたします。

また、平成 29 年 3 月期に当社において営業外収益(投資事業組合運用益)及び当社の連結子会社において特別損失(減損損失)を計上することとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

平成 29 年 3 月期通期の連結業績予想の修正 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

(金額の単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想値 (A) (平成 28 年 11 月 8 日発表)	5,320	168	460	336	25 円 07 銭
今回修正予想値 (B)	5,256	27	662	48	3 円 55 銭
増減額 (B-A)	△64	△141	202	△288	—
増減率 (%)	△1.2%	△83.9%	44.0%	△85.8%	—
(ご参考) 前年実績 (平成 28 年 3 月期連結会計年度)	5,754	181	443	418	31 円 28 銭

(注) 平成 28 年 10 月 1 日を効力発生日として、普通株式について 10 株を 1 株とする株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「1 株当たり当期純利益」を算定しております。

2. 平成 29 年 3 月通期の連結業績予想の修正の理由

売上高及び営業利益の差異の主な要因は、ホテル事業において売上が計画以上に推移する一方で、来期に予定していた修繕等の先行投資を当期に実施したこと、不動産事業において不動産事業の縮小に伴い平成 29 年 3 月期第 4 四半期連結会計期間に予定していた不動産仲介業務が未実施となったことなどによるものであります。

経常利益の差異の主な要因は、前回業績予想の際に特別利益としていた違約金収入 327 百万円を営業外収益としたこと、下記のとおり復興ファンドに係る投資事業組合運用益が好調な結果となり営業外収益が計画を上回ったことなどによるものであります。

親会社株主に帰属する当期純利益の差異の主な要因は、下記のとおり当社の連結子会社において減損損失を計上したことなど特別損失の計上等によるものであります。

3. 営業外収益(投資事業組合運用益)の計上

当社は、平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間において、投資事業組合運用益 206 百万円を計上していましたが、引き続き復興ファンドに係る投資事業組合運用益が好調な結果となり、平成 29 年 3 月期第 3 四半期連結会計期間に 41 百万円、平成 29 年 3 月期第 4 四半期連結会計期間に 160 百万円を計上し、平成 29 年 3 月期通期で、投資事業組合運用益 407 百万円を営業外収益として計上いたしました。

4. 特別損失(減損損失)の計上

当社の連結子会社である朝里川温泉開発株式会社は、平成 29 年 3 月期に市場価格の低下が認められる同社保有の土地(所在地：北海道小樽市)について「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失 48 百万円を特別損失として計上いたしました。

また、当社の連結子会社である株式会社バリュー・ザ・ホテル宮城は、平成 29 年 3 月期に将来の回収可能性を検討し建物及び構築物等について「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失 49 百万円を特別損失として計上いたしました。

当該子会社の概要

名 称	朝里川温泉開発株式会社	株式会社バリュー・ザ・ホテル宮城
所 在 地	東京都千代田区岩本町一丁目 12 番 3 号	宮城県名取市上余田字千刈田 555 番 1
代 表 者	代表取締役 高倉 茂	代表取締役 高倉 茂
事業内容	不動産開発等	ホテル運営等
資 本 金	1,000 万円	100 万円

以 上